

## Picot's Caregivers' Reward Scale 日本語版作成 と職業介護者ポジティブゲイン尺度との比較

著者	堀川 悦夫, 中村 貴志, 佐野 幸子, 小川 敏之, 林崎 光弘, 松井 敏文, 荒井 啓行, 佐々木 英恵, 北村 晴朗
雑誌名	東北大学医療技術短期大学部紀要 = Bulletin of College of Medical Sciences, Tohoku University
巻	12
号	1
ページ	27-34
発行年	2003-03-20
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/33812">http://hdl.handle.net/10097/33812</a>

## Picot's Caregivers' Reward Scale 日本語版作成と職業介護者 ポジティブゲイン尺度との比較

堀川悦夫<sup>1,6</sup>, 中村貴志<sup>2</sup>, 佐野幸子<sup>3</sup>, 小川敬之<sup>4</sup>, 林崎光弘<sup>5</sup>  
松井敏文<sup>6</sup>, 荒井啓行<sup>6</sup>, 佐々木英忠<sup>6</sup>, 北村晴朗<sup>7</sup>

<sup>1</sup>東北大医学医療技術短期大学部 総合教育

<sup>2</sup>西南女学院大学 保健福祉学部

<sup>3</sup>福岡女学院大学 人間関係学部

<sup>4</sup>九州保健福祉大学 保健科学部

<sup>5</sup>函館あいの里 総合施設長

<sup>6</sup>東北大大学院医学系研究科 老年呼吸器病態学講座

<sup>7</sup>東北大 (名誉教授)

## Development of Japanese Version of Picot's Caregivers' Reward Scale and Comparison Analysis with Positive Gain Scale for Professional Caregivers

Etsuo HORIKAWA<sup>1,6</sup>, Takashi NAKAMURA<sup>2</sup>, Sachiko SANO<sup>3</sup>, Noriyuki OGAWA<sup>4</sup>,  
Mituhiko HAYASHIZAKI<sup>5</sup>, Toshihumi MATSUI<sup>6</sup>, Hiroyuki ARAI<sup>6</sup>,  
Hidetada SASAKI<sup>6</sup> and Seiro KITAMURA<sup>7</sup>

<sup>1</sup>*General Education, College of Medical Sciences, Tohoku University*

<sup>2</sup>*Faculty of Health and Welfare, Seinan Jo Gakuin University*

<sup>3</sup>*Faculty of Human Relations, Fukuoka Jo Gakuin University*

<sup>4</sup>*Faculty of Health Science, Kyusyu University of Health and Welfare*

<sup>5</sup>*Hakodate Ai no Sato*

<sup>6</sup>*Geriatric and Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Tohoku University*

<sup>7</sup>*Tohoku University*

Key words: positive gain, caregiver, care receiver, reward

The positive gain during caregiving by professional workers for the elderly in Japan was confirmed in our previous research. To investigate the structural factors of caregivers' positive gain, precise analysis on the scale for positive gain is needed. The purposes of this study are 1) to examine the reliability and validity of our original scale for positive gain by professional care workers, 2) to compare the contents and structure of the scale which was developed for family caregivers. After the confirmation of high reliability and good sampling property of our original scale, a factor analysis was administered. This analysis revealed that the scale included three factors, i.e. working motivation, intrinsic positive gain and extrinsic positive gain. To compare the structural factors and to apply to Japanese family caregivers, Japanese version of the scale for family

caregivers by Picot (1995) was developed through translation to Japanese and back translation to English. According to the article by Picot (1985), the scale for family caregivers included two factors, i.e. inner reward and outer reward. Taking into account of the difference of target subjects, the main structure was similar in both scales. In contrast, the contents of scale items varied between two scales. The scale for professional caregivers focused on the experiences of positive gain, and the scale for family caregivers included expanded items including social support, economical support and human relations. The reliability and validity of our Japanese version of family caregivers reward scale will be reported precisely in the other article.

### はじめに

高齢者の介護に関わる問題は現代社会における重要課題の一つである。高齢者に対する介護には多くの側面があるものの社会一般における認識は介護のいわばネガティブな部分についての印象が強いように感じられる。本研究の共同研究者である北村は、かねてから介護にはネガティブな側面だけではなくポジティブな側面もあるという指摘をしてきている。これまであまり指摘されなかった、介護におけるポジティブな面の存在についての実証的な研究が必要であり、その研究は介護を総合的に科学的に捉える上で一つの重要な要因となると考えられる。介護におけるポジティブな面は、ある種の報酬として機能することから、介護における様々な行動に理解において貴重な視座を提供するものである。

これまで、ポジティブゲインが日本の介護サービス提供者においても存在するのか否かの検討をまず行い(堀川ほか 2000)、さらに介護ポジティブゲインの数量化を目指した尺度(高齢者介護ポジティブゲイン尺度 Caregivers' Positive Gain Scale for Elderly: CPGS)を作成しその構成要因について分析を行ってきた(堀川ほか 2001)。

この研究においては、各種高齢者用の施設における介護サービス提供者と同施設内で主にデイサービスを利用している介護サービス利用者の双方から調査データを得ることができた。介護サービス提供者には質問紙調査を行い、介護サービス利用者には1対1の半構造化面接を実施した。調査内容は、ポジティブゲインに関連する経験の有無、経験内容、介護サービス利用者と提供者間の

関係についての評価、介護業務自体への評価、介護サービス提供者および利用者の家族や施設への要望などから構成されている。この調査においては、介護サービス利用者・提供者双方のことは遣いや態度への評価など対人関係を規定する要因、介護における双方の期待や要望などについて評価や自由記述での回答を得た。

その結果からは、介護における様々な経験の中でポジティブゲインと見なすことできる体験が多くの介護サービス提供者が経験していることが明らかとなった。勤務経験とポジティブゲイン得点の分析からは、ポジティブゲインが単なる経験の積み重ねによるような偶発的なものではないことが示唆されている。また、ポジティブゲイン得点と職務動機の評価の分析からは、両者に相関関係がみられることが得られ、介護におけるポジティブゲインの構成要因として職務動機の高さが影響していることが示された。介護サービス提供者の多くがポジティブゲインを経験しているという結果であるとともに、介護サービス提供者は、介護サービス利用者の感謝の言葉や、コミュニケーションが成立すること、介護サービス利用者の症状が軽減することや笑顔などが喜びとなることが示された。これらの多くの介護サービス提供者が家族に対しては介護自体や介護サービス利用者への理解を求め、同僚には更なる介護技能の向上を求める回答がみられるなど、客観的に評価する面も併せ持っていることから、単にこの調査において楽観的なあるいはポジティブな評価をしているのではなく、回答の信頼性や妥当性を支持するものと考えられる。このような点から、ポジティブゲインは、提供者・利用者間のコミュニケーショ

Picot's Caregivers' Reward Scale 日本語版作成と職業介護者ポジティブゲイン尺度との比較

ンや職務動機の観点から有効な視点であると考えられる。

我々が当該研究で用いた尺度(表1)は、サービス提供者、特に職業として介護業務に従事する人

たちを対象としたものである。その信頼性と妥当性の検討結果は既に一部は報告したが、本報告においては、他の研究者によるポジティブゲイン測定尺度と比較しながら検討を行う。

表1. 介護サービス提供者用ポジティブゲイン尺度 CPGS ver. 1.0

それぞれの項目について、あなたの経験にあてはまるところに、○をつけて下さい

	全く あてはま らない	やや あてはま らない	やや あてはま る	非常に あては まる
1 心に深く残るほど嬉しかった言葉を、介護サービス利用者からかけられたことがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 心に深く残るほど嬉しかった体験が、介護サービス利用者との関わりである	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 日々の勤務経験の中で、嬉しい言葉を介護サービス利用者からかけられることが頻繁にある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 日々の勤務経験の中で、嬉しいと感じる体験が介護サービス利用者との関わりで頻繁にある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 心に深く残るほど嬉しかった体験が、職場の同僚・上司との関わりである	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 日々の勤務経験の中で、嬉しいと感じる体験が職場の同僚・上司との関わりで頻繁にある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 介護サービス利用者との関わりから、仕事について教えてもらったり、気づかせてもらったことがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 介護サービス利用者との関わりから、私自身について教えてもらったり、気づかせてもらったことがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 職場の同僚・上司から、私自身について教えてもらったり、気づかせてもらったことがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 介護サービスの仕事経験を通じて、私はこの仕事の能力を高めていると思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11 介護サービスの仕事を通じて、私自身は成長したと思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12 介護サービスの仕事を通じて、私自身は今後も成長していくと思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13 介護サービスの仕事をして、とても良かったと思った強い経験がある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14 日々、介護サービスの仕事をして良かったと思いながら働いている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15 介護サービスの仕事を選択したことは良かったと思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16 介護サービスの仕事は私に向いていると思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17 介護サービスの仕事に私は前向きに挑戦している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
18 介護サービスの仕事に私は満足している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
19 介護サービスの今の職場が好きである	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
20 介護サービスの仕事をしている私自身が好きである	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
21 介護サービス利用者をお願いしたいことが多くある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
22 介護サービス利用者のご家族やご親類の方々をお願いしたいことが多くある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
23 現在の施設に対して希望することが多くある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
24 現在の職場の人々に対して希望することが多くある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Picot (1997) は、Caregivers' Reward Scale を発表している。この尺度は家族介護者を対象として作成されたものである。我々はこの尺度の日本語版作成を行い、高齢者介護ポジティブゲイン尺度の内容と比較検討を行うことが本論文の目的である。

## 1) 高齢者介護ポジティブゲイン尺度、介護業務従事者版 (CPGS-P) の検討

### 方法

平成 13 年の調査によって得られた高齢者介護ポジティブゲイン尺度のデータを用い、要望や希望に関する項目を除いた質問項目 1~20 対する 4 段階尺度への 129 人の回答について因子分析を行った。統計解析ソフトウェアには SPSS11.0 を用いた。

### 結果

尺度に対する回答は、「全く当てはまらない」を 1 点、「やや当てはまらない」を 2 点、「やや当てはまる」を 3 点、「非常に当てはまる」を 4 点として数量化が行われた。その結果、とりうる得点の範囲は 20 点から 80 点となる。

まず因子分析を行うこと自体の妥当性を検討した。因子分析には、調査項目に含まれる変数の 5 倍以上の調査サンプルが必要であると指摘されているが、本研究では 20 変数の 5 倍、つまり 100 以上という回答数はクリアされている。次にサンプリングの妥当性について検討を行う。この尺度の妥当性を検討するため、Kaiser-Meyer-Olkin の標本妥当性測度 (サンプリング適切性基準ともいわれる) が計算された。その値は、0.863 であった。あるサンプルで因子分析を行うことの適切性が marvelous とされる 0.9 以上には及ばないものの、meritorious と判断される値であった。Bartlett の球面性の検定においては有意確率が 0.001 以下と有意であり、この指標から観測変量間の関連性を示唆している。また、信頼性分析の結果では、Chronbach の Alpha 係数は、0.924 とこれも高い値を示していた。これらの点から本研究のデータを因子分析によって分析していくことは妥当と考えられる。

因子分析は、主因子法で因子抽出を行い、回転には Kaiser の正規化を伴わないバリマックス法が用いられた。因子数を制限せずに行った初回の因子分析の結果においては、固有値 1.0 以上の因子数は 6 であり、回転後の負荷量平方和は、第一因子 1,123.7%, 第 2 因子 13.6, 第 3 因子 12.1%, と続き、第 6 因子では 11.47% となり、第 6 因子までの累積率は 72.4% であった。固有値が 1.0 以上であること、累積寄与率が 50% を越えることなどを基準として検討しながら、因子数を制限して、因子分析が繰り返されたのち、因子が抽出された。

抽出された因子は、3 因子で、職務動機因子、外的ポジティブゲイン因子、内的ポジティブゲイン因子と解釈された (表 2)。

## 2) Picot's Caregivers' Reward Scale 日本語版の作成

### 方法

#### ① Picot Scale の基本日本語版の作成

既に高齢者介護の研究や関連する領域の関わったりしている研究者は、調査やデータ処理の過程での経験から適切な判断ができると予想できる反面、種々の先入観やバイアスの存在する可能性がある。そのため、著者らや関係領域の研究者以外の専門家による中立的な翻訳が求められる。そこで基本日本語版の作成にあたっては、この種の研究や社会福祉関連の業務に関する経験がなく且つ日本語・英語に精通している専門家が望ましいこととなる。本研究においては、日本の高校において英語教育を担当する教員グループによって基本日本語版の作成が行われた。また、このグループには、英語を母国語とし且つ現在日本に赴任中の英語講師数名も参加して検討が行われた。

#### ② 日米 2 カ国語習得者による基本翻訳版の検討

作成された基本日本語版に基づき、尺度として使用することを念頭においての検討が行われた。検討に当たっては、本論文の著者グループに加え、日米の国際比較研究に携わった経験を有し、米語・日本語の両方に堪能な社会福祉学の研究者・臨床家および教育心理学領域の大学院博士課程在

表 2. 介護ポジティブゲイン尺度 (CPGS) 因子分析の結果

No.	尺度	第 1 因子		第 2 因子		第 3 因子		共通性
		順位	因子負荷量	順位	因子負荷量	順位	因子負荷量	
16	介護は自分に向いている	1	0.825	18	0.112	15	0.159	0.72
14	日々、介護業務をしてよかったと思ひ勤務	2	0.818	12	0.269	14	0.162	0.77
20	介護業務をしている私自身が好き	3	0.807	16	0.153	13	0.182	0.71
18	介護の仕事に満足している	4	0.750	11	0.321	20	0.024	0.67
17	介護業務で前向きに挑戦	5	0.745	14	0.202	11	0.224	0.65
15	介護業務を選択してよかった	6	0.736	17	0.147	9	0.305	0.66
19	今の職場が好き	7	0.703	9	0.347	16	0.146	0.64
3	利用者からうれしい言葉を頻繁に受ける	13	0.214	1	0.730	19	0.062	0.58
5	同僚上司との間でとてもうれしい体験がある	15	0.193	2	0.691	17	0.126	0.53
1	利用者からとても嬉しい言葉をかけられた	17	0.123	3	0.670	8	0.307	0.56
6	同僚上司との間でうれしい体験が頻繁にある	14	0.208	4	0.666	18	0.088	0.49
2	利用者との間でとても嬉しい体験あり	18	0.083	5	0.635	10	0.293	0.50
4	利用者との間でうれしい体験が頻繁にある	12	0.274	6	0.628	12	0.212	0.52
13	介護をしてとてもよかったという強い経験あり	11	0.315	7	0.458	7	0.389	0.46
12	介護業務の中で自分は今後も成長していく	9	0.397	19	0.095	1	0.749	0.73
8	利用者との関わりの中で自分について学んだ	19	0.072	10	0.339	2	0.729	0.65
11	介護業務の中で自分が成長した	10	0.327	15	0.159	3	0.728	0.66
7	利用者との関わりの中で仕事について学んだ	20	-0.024	13	0.239	4	0.720	0.58
10	介護業務の中で介護能力を高めている	8	0.449	20	0.006	5	0.607	0.57
9	同僚上司から自分について学んだ	16	0.154	8	0.369	6	0.554	0.47

学者で現在日米の国際比較研究を行っている者が検討を行い、語句の修正を行った。

### ③ 数量化のための修正

数量化して統計処理を行う際に必要な処理が可能となるように、質問文の語尾や表現方法の統一、さらに選択肢の語句の修正が行われた。これに加えて調査の趣旨や回答者のこれまでの経験や介護に関わる情報を得るための質問項目が付加された。

### ④ 逆翻訳版の作成

日本語版の尺度の妥当性を高めるためには、日本語版をもとに英語に翻訳し直し、オリジナルの

英文との相違を検討する必要がある。この逆翻訳には、基本日本語版と同様にこの研究や関連領域に特に知識や経験を有せずに日本語米語に精通した専門家が望ましい。そこで本研究では、日本での英語教育の経験を有するアメリカ在住の日本人数名と日本語・米語の両方に堪能で国際比較研究で学位を取得した臨床心理学者が逆翻訳版作成に当たった。これら逆翻訳版の担当者は本研究の内容や目的について知識を有していない。

### 結果

日本語版の作成結果を表 3 に示す。Picot (1995) のオリジナル版に可能な限り近い形態で尺

表3

この調査は、血縁のあるなしに関わらず、お身内のお年寄りを介護なさっている方を対象としています  
 日頃、皆様がお年寄りのお世話をすることについて感じていらっしゃることを、お答え下さい。お年寄りのお世話をすることには多くの考え方があり、質問項目の中には皆様のご意見と異なるものもあるかもしれませんが、調査の性質上、全部の項目についてお答え下さい。  
 調査結果は、回答者全体として統計的に分析され、個人の回答内容が公表されたりすることは決してありません。よろしく御協力をお願いいたします。  
 禁無断転載 PCRS Picot 1995  
 Japanese ver. 3.0 ポジティブゲイン研究グループ 堀川他 (2003)

	かなり そう 思う	やや そう 思う	どちら とも いえない	やや そう思 わない	殆ど そう思 わない
1 介護していることで以前よりも自分のことが好きになったと思う。	<input type="checkbox"/>				
2 以前よりも病気や障害のある人に対して、人間としてたくましく、寛大で、忍耐強くなったと思う。	<input type="checkbox"/>				
3 他の人から、「介護をすることは正しいことである」、とってもらうことは大切だと思う。	<input type="checkbox"/>				
4 介護している人は、遺言の中でも私に感謝してくれるだろうと思う。	<input type="checkbox"/>				
5 私自身に介護が必要となった時には、誰かきつとが介護してくれると思う。	<input type="checkbox"/>				
6 看護師、医師、福祉職も、私と同じように、その人に関わる仕事をよくやっていると思う。	<input type="checkbox"/>				
7 私が介護をしているから、この人を福祉施設に入れなくて済むと思う。	<input type="checkbox"/>				
8 私が介護している人の回復見込みについて、医師、看護師、そして福祉職が、すべてを知っているとは限らないと思う。	<input type="checkbox"/>				
9 私が介護しているお年寄りが、笑顔を見せてくれたり、触れあいを求めたり、目を向けてくれることは大切だと思う。	<input type="checkbox"/>				
10 介護を始めてから、その人と私の信頼関係は深くなったと思う。	<input type="checkbox"/>				
11 介護することはその人に対して、今まで自分によくしてもらったことへの恩返しをする良い機会だと思う。	<input type="checkbox"/>				
12 介護している人から「ありがとう」と言われることは私にとって大切なことだと思う。	<input type="checkbox"/>				
13 介護をする中で、新しい知識や経験を得て、自分が以前よりも人間的に向上したと思う。	<input type="checkbox"/>				
14 その人を介護する新しい方法を学んで、人間的に向上したと思う。	<input type="checkbox"/>				
15 介護をすることで、新しい友人がたくさんできたと思う。	<input type="checkbox"/>				
16 以前よりも、私は重要な役割を果たしていると感じる。	<input type="checkbox"/>				
17 介護について判断が必要になったときは、私に任せてもらえるようになった。	<input type="checkbox"/>				
18 介護という社会的役割を果たしているので職を持たなくてもいいと思う。	<input type="checkbox"/>				
19 私の努力に対して、医師や看護師そして福祉職からほめてもらったり、敬意を示してもらうことは大事だと思う。	<input type="checkbox"/>				
20 介護することと、自分の生活との調整がうまくできるようになったと思う。	<input type="checkbox"/>				
21 私は、その人の介護を始める以前よりも今の方が幸福だと思う。	<input type="checkbox"/>				
22 私がその人の介護をすることで家族が成長し、家族の結びつきが強くなったと思う。	<input type="checkbox"/>				
23 その人を介護する大変な状況の中で、私が努力することによって、家族が私を尊敬するようになったと思う。	<input type="checkbox"/>				
24 介護をしていることは、いつか報われるだろうと思う。	<input type="checkbox"/>				
25 介護をすることで経済的にうるおうこともあると思う。	<input type="checkbox"/>				

度が作成されるべきであるが、検討の段階で日本での尺度使用においては回答者の違和感が予想される項目が指摘された。そのため、オリジナル版の趣旨を変更しないよう日本語版では項目の順番を一部変更することなどで対処することとした。その結果オリジナル版の第一項目に配置されていた項目は日本語版の最終項目の直前に配置された。

### 総合考察

我々が作成した尺度 (CPGS-P) と Picot (1995) の PCRS では、24 項目と同数の項目数であった。Picot (1995) は、CGRS に 2 因子構造を仮定している。それらは外的報酬因子と内的報酬因子である。外的報酬因子に該当する質問項目は、日本語版の No. 1, 2, 3, 7, 8, 10, 11, 13, 14, 16, 17, 20, 21, 22, の 14 項目、そして内的報酬因子に該当する質問項目は、4, 5, 6, 9, 12, 15, 18, 19, 23, 24, 25, の 11 項目である。

一方 CPGS-P における因子分析の結果からは 3 因子が抽出され、職務動機因子、外的ポジティブゲイン因子、内的ポジティブゲイン因子と解釈されるものである。CPGS-P における職務動機因子は No. 14~20 の 7 項目、外的ポジティブゲイン因子は、項目 No. 1~6 および 13, の 7 項目で、内的ポジティブゲイン因子は、No. 7~12 の 6 項目である。CPGS-P は業務として介護を行っている介護者に対する尺度であり、外的・内的ポジティブゲイン因子に職務動機因子が組み合わされたという構造は、基本的には PCRS と同様の因子から構成されていると考えることができる。

PCRS においては、相関係数をもとに内的報酬と外的報酬の関係が分析されている。それによると内的報酬と各尺度項目間の相関係数は、0.434 から 0.695 の値を示し、外的報酬と各尺度項目間の相関係数は、0.425 から 0.570 の値であった。一方、内的報酬得点と外的報酬得点の相関係数は 0.996 と高い値を示している。これに対し CPGS-P では、外的ポジティブゲイン得点の因子負荷量は 0.703 から 0.825、内的ポジティブゲイン得点の因子負荷量は 0.458 から 0.730 という値であった。外

的ポジティブゲイン得点と内的ポジティブゲイン得点間の相関係数は  $r=0.555$ ,  $p<0.001$  であった。因子分析の結果から導き出された両因子の相関は低い方が望ましく、PCRS よりも低い値であるが、より尺度構成内容の吟味が必要であろう。

両尺度の各項目を比較してみると、両尺度の特色が明確になってくる。PCRS の内的報酬項目には、その尺度項目の内容から、被介護者の反応や行動に起因する項目が 11 項目中の 3 項目、ソーシャルサポートに関連する項目が 3 項目、経済的な報酬に関する項目が 2 項目、医師・看護師など介護に関わる専門家に関する項目が 1 項目、自分自身が介護を必要とする場合に関する項目が 1 項目であった。CPGS-P においては、被介護者の反応や行動に起因する項目が 7 項目中の 3 項目、同僚との関わりが 2 項目、一般的なポジティブゲインに関する項目が 1 項目であった。被介護者の反応や行動に起因する項目が共通しているものの、PCRS は広範囲な要因からの報酬から構成されているのに対し、CPGS-P においては被介護者の反応に重点を置いている構成内容といえる。

外的要因に関して同様の分析を行ったところ、PCRS においては、外的報酬項目 15 項目中、人間的・人格的向上に関する項目が 3 項目、自己イメージの向上に関する項目が 3 項目、被介護者や家族との関係の親密化の項目が 2 項目、自己の行動選択の自由度向上の項目が 2 項目、高齢者への恩返しに 1 項目、その他の項目が 3 項目であった。CPGS-P においては、6 項目中、業務や自分自身について教えてもらった経験に関する項目が 3 項目、人間的・人格的向上に関する項目が 2 項目、介護業務自体の能力向上が 1 項目であった。外的要因に関わる項目においても、PCRS は広範な内容からなる尺度項目から構成されているのに対し、CPGS-P においては人間的・人格的成長観や介護を通じて学んだ経験に注目して構成されている。

このように PCRS は広範囲な内容を有する項目から構成された尺度であるが、日本語版作成過程において、日米の文化間差異に関すると思われる検討事項が見いだされている。日本の実状に適した介護におけるポジティブゲインの数量化に関

しては、全国4箇所での実施した調査結果を用いた信頼性妥当性の検討を含む別稿で論じていきたい。

特記 PCRSの日本語版作成においては、開発者である Sandra J Picot 博士の許可のもとに行われたものである。そのため開発の行われた1995年の原版をもとに Picot (1995) と表記してある。

### 謝 辞

日本語版作成に過程において仙台市立女子商業高等学校北村武寛先生を始めとする英語担当の教員諸氏、ミシガン大学老年医学センターRuth Campbell氏、Mariko Faulk氏、ミシガン大学大学院博士課程、調所あかね氏、英語教員橋本美佳子氏、渡部真喜子氏、臨床心理学者市川福美博士に多くのご協力と貴重なご示唆をいただいた。

### 文 献

- 1) Kramer, B.J.: Gain in the Caregiving Experience: Where are we? What Next?, *The Gerontologist*, **37**, 218-232, 1997
- 2) Beach, D.L.: Family caregiving: The positive impact on Adolescent relationship, *The Gerontologist*, **37**, 233-238, 1997
- 3) Noonan, A.E., Tennsteadt, S.L.: Meaning in caregiving and its contribution to caregiver well-being, *The Gerontologist*, **37**, 785-794, 1997
- 4) 堀川悦夫, 田子裕子, 齋藤 真, 林崎光弘, 北村晴朗: 介護業務に対する利用者・従事者双方の評価に関する研究—介護業務の経験から学ぶことから—, *東北大学医療技術短期大学部紀要*, 10巻, 1号, 59-64, 2001
- 5) 堀川悦夫, 中村貴志, 佐野幸子, 小川敬之, 林崎光弘, 佐々木英忠, 北村晴朗: 介護サービス利用者と介護サービス提供者の相互評価及びポジティブゲインに関する研究, *高齢者痴呆介護研究・研修仙台センター研究紀要*, No. 2, 147-161, 2001
- 6) Picot, S.J., Youngblut, J., Zeller, R.: Development and testing of a measure of perceived caregiver reward in adults, *Journal of Nursing Measurement*, Vol. 5, No. 1, 33-52, 1997